

平成31年度 主要事業等

予算額
(単位：千円)
9,015

新規 災害対策事業

昭和34年に発生した伊勢湾台風による災害から60年を迎えるにあたり、災害の教訓を後世に伝承するため、市役所敷地内に祈念碑を設置する。また、平成31年11月17日(日)には、祈念碑の除幕式と併せ、減災フォーラムを開催する。
また、新たに地域減災リーダー認定者への活動着を支給することにより、発災時の体制整備を図る。

継続 防災行政無線デジタル化推進事業

196,606

既存の防災行政無線は、老朽化及び平成34年度にはアナログ方式が使用不可能になることに伴い、平成30年度から順次デジタル方式へと更新を行っている。平成31年度は、残りの基地局、中継局及び子局の更新を行うと伴に、防災無線情報等がスマートフォン等の電子機器で閲覧可能となる防災アプリを導入する。

新規 砂防総務事業

5,962

水防法の改正に伴い、想定される最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域を反映した新たな土砂災害(洪水)ハザードマップを作成し、市民への配布を行い、災害への備えを一層強化する。

新規 高齢者運転免許証自主返納支援事業

600

運転免許証を自主返納した市内の70歳以上の高齢者に対し、市民バス無料券(1年分)、タクシー利用券(1万円分)、PASMO(1万円分)、Suica(1万円分)のいずれかを1回のみ交付し、交通手段の確保を支援する。

新規 高齢者民営バス助成事業

1,898

市民バスと民営バスとの間で生じている高齢者の運賃格差を是正するため、民営バスのゴールド定期券を購入した市内の65歳以上の高齢者に対して、購入金額の1/2を助成する。

拡大 子ども医療費助成事業

126,402

医療費の窓口無料化の対象年齢を15歳から18歳に引き上げ、子育てに対する負担の軽減を図る。

新たな対象者見込(16歳~18歳)：894人 医療費助成増加見込額：11,452千円

新規 中学生検定料補助事業

1,060

生徒の英語科の学習意欲の向上と保護者の負担軽減を図るため、中学生が実用英語技能検定の3級以上を受検した場合、検定料の全額を助成する。

新規 適応指導教室運営事業

8,744

県の適応指導教室(葎崎教室)が本年度で閉鎖となるため、本市の児童生徒の受け皿となる教室を市単独で設置する。

予算額
(単位：千円)

継続 赤ワインの丘ブランド化推進事業

6,965

本市特産のワイン、ぶどうの知名度を高め、地元産ワインのブランド化と消費拡大につなげるため、平成30年度には、協議会を立ち上げ、「ワインフェスinにらさき」を開催した。

平成31年度は、同フェスを開催するほか、「新酒発表会」の開催や小規模ワイナリーの建設費等への補助、ワイン原料用ぶどう棚の設置費への補助を行い、多方面から施策を展開をする。

継続 地域体育館建設事業

227,252

建築から約50年を経過する地域の3体育館について、市民スポーツや文化の振興、避難所としての機能の充実を図るため、計画的な建替えを行う。

平成31年度 ・中田屋内運動場 建設工事等

・円野屋内運動場 設計業務委託、既存施設解体工事等

今後の予定 平成32年度：円野屋内運動場建設 平成34年度：穴山屋内運動場建設

新規 学校給食費管理運営事業費

150,374

教職員の多忙化解消のため、学校給食費を公会計化する。

市制施行65周年記念事業

市制祭記念式典事業

3,125

市制祭の開催経費及び特別記念講演会の開催

子育てフェスティバル開催事業

995

子育てにやさしいまち蕪崎を目指すイベント開催経費、屋内遊園地型プロジェクトソンマッピングを予定

災害対策事業（減災フォーラム）

9,015

東京大学大学院特任教授 片田敏孝 氏を講師として招き、市民の防災、減災意識の向上を図る。

日本遺産構成縄文文化財活用事業

5,552

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の認定を記念し、縄文土器づくり教室や出土品の企画展を開催する。

まちなか美術館事業

6,754

市民交流センターニコリの地下アートギャラリーにおいて、相田みつを展を開催する。